

## 演習事例 1

「井上一朗さん 26 歳 ダウン症候群 母との 2 人暮らし」

一朗さんは特別支援学校高等部を卒業後、就労継続 B 型事業所を利用してきた。事業所での作業内容は、タオルたたみや空き缶つぶしなどができていた。市内への廃品(空き缶)改修にも積極的で、回収途中の公園で休憩時間に職員とサッカーボールを蹴り合うことが好きだった。ADL はほぼ自立しており、意思疎通は「うん、いいえ」など 2 語程度で意思表出が可能。

そんなある日、心臓の疾患が見つかり、無呼吸症候群もあり、母親の判断で作業所の利用が 5 日から 3 日に減った。家にいる日は、大好きなウルトラマンやドラゴンボールの DVD などを見て過ごしていることが多くなった。そして、病気の治療は終了しているものの、作業所の職員も入れ替わることが多く、昔の一朗さんを良く知る職員はいなくなっています。

現在、一朗さんは作業所に通ってくるものの、ほぼ一日中トイレにこもり、活用や食事時間など、1 日のカリキュラムに乗れずに過ごしています。作業所への送迎中や日中の時間帯に、便失禁なども起こしていますが、一朗さんの担当職員は「好きでトイレにいるのだから」とあまり気に留めていない様子です。異動したてのあなたはサービス管理責任者として、一朗さんの個別支援計画を確認したところ、総合的な支援目標は、「健康に留意して、楽しく作業所に通う」となっている。

### ▼作業所での過ごし方

時	9:00	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	15:00	16:00	16:45
内容	自宅迎え	作業所到着	作業	昼食	休憩	作業 or 創作活動	作業終了	事業所出発	帰宅
一朗さん	母親と集合場所で待っている	着替え	トイレで過ごす(資源回収に行ける日もある)	食堂から全員がいなくなると食堂へ入り食べる	トイレ	トイレで過ごす(創作活動には参加することがある)	水分補給とおやつ	着替え	

この限られた情報だけで、あなたがサビ児管として、一朗さんのおかれている状況は、どんな時期・状態だろうかと判断しますか？

別紙 C の評価書のステップとなぜそう思ったかを、別紙の事前課題 2 に記入してください。

井上一郎さんの評価書（見立て）

あなたがサービス管理者ならば、井上一郎さんの置かれている状況は、どんな時期・状態だろうと判断しますか？時期や状態を意識して考えましょう。

利用者の暮らしの現状（本人がどのように考えているのか）

- ・ **ステップ1 障害や病気によってできなくなったことで打ちひしがれている時期。**  
私の人生はもうだめだ、こんなものだとかきらめている時期。この状態が何年も続いている場合もある。
- ・ **ステップ2 自分の新たな可能性を感じ始めている時期。**  
変化が可能だと思い始めている（障害や病気が原因でできないのではないかと疑問を抱き始めている）。障害や病気だからできないのか？と自分に疑問を思いはじめているとも考えられる。「できるかな？」と感じ始めているかもしれない。
- ・ **ステップ3 障害や病気だからできないという考えを変え、新たな自分自身の可能性を試そうとしている時期。**  
変化しよう、実際に何かを試してみる、変化のきっかけとなる人と出会う、何か人にしてあげられるのではないかと考えている。
- ・ **ステップ4 変化を起こすために行動に移す時期。**  
振り返ると自分が障害や病気を持ったことで今の生活や作業ができていると感じれることもある。毎日支援を受けたり、障害から生じる不便さを感じていても、それは人生の一部であり、私は自分のことを障害者であるとは考えなくなっている。

1. 上記を読んで、あなたは一郎さんがどのような時期にいると考えますか。

2. なぜ1. のように考えましたか。その理由（根拠）はなんですか。